



JCNA 通信 第 27 号

発行日 2020.2.11

発行人 山口郁乃

編集人 福島恵子

創立 1957 (S32) 年

秋の嵐 教皇フランシスコの訪日

会長 山口郁乃

聖ヨハネ・パウロ二世教皇(当時61歳)が日本に来られた1981年2月、長崎は吹雪でした。この秋、フランシスコ教皇は長崎に大雨を、東京にも冷たい雨風をもたらしたかのようでした。広島平和公園では、夕暮れのご登場でした。信徒も大変でしたが、82歳のお体にどんなに大変な旅だったことでしょう。

38年前より世界はもっとぎくしゃくと互いを主張して譲らぬようになり、教皇様のお言葉もそんな社会が陥りかけている危険についてもっと厳しいものになりました。世界の平和の実現には、すべての国が自覚をもつ必要があるとの思いが、このアジアの東端の国までお足を駆り立てたのでしょ。

教皇様のことをロックスターだのと茶化す記事も見ましたが、この命がけのメッセージを真剣に受け取るかどうか。ルカ16章の金持ちへの厳しい言葉は、今も生きています。

* 本部役員がそろいました *

JCNA本部はしばらく書記なしで進んできましたが、この度、東京支部の藤井智恵美さんが着任されました。

この度本部書記を拝命いたしました東京支部の藤井智恵美と申します。

助産師として東京の聖母病院に勤務いたしました時に、JCNAのお仕事をさせていただきました。聖母を離れてからは会とも疎遠になりましたが、2014年の第56回JCNA東京大会の開催のお手伝いをしたことから、また会に入会いたしました。

現在は看護教育に携わっております。

今年のクリスマスに友人の所属する神奈川県真鶴教会でお会いした

鵜飼好一神父様が、横浜支部の

顧問司祭ということを知り、

不思議なご縁を感じております。

微力ながら精一杯務めさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

よろしく願います。



* 日本カトリック医療3団体合同全国大会 in 長崎について *

今年度は、JCNA 独自の大会は開催せず、カトリック医療施設協会、カトリック医師会との合同の大会を、テーマである「パウロ永井隆博士」のゆかりの地長崎で開催しました。

炎暑の長崎でしたが、長崎の施設と人をあげてのご協力で無事終了しました。永井博士についてこれをきっかけに深め、ワイワイと語りましょう。

この大会の準備には長崎支部の方々を本部代行として委嘱しました。

長崎支部長 野下しのぶ

この大会の準備運営には、本部代行を長崎支部の Sr 野下しのぶ、Sr 石岡ヒロ子、小山田恵子さんの3名でお受けしました。

私たち3人はJCNAから委嘱を受けて合同会議に出席し、JCMA、JCMIAの方々と大会準備を共にしました。プログラムを構成していく段階でJCNAの希望を出しました。永井博士が中心だったために南原さんの発表を入れることができなかつたのは残念です。その五の準備は、聖フランシスコ病院の事務長さんを中心にJCMIAの方々がすべて動いてくださいました。当日はボランティアとして参加した下五島・聖マリア病院スタッフの方々が会場への案内を担当してくださいました。

今回、「平凡の中の非凡、非凡の中の平凡」を生きられた永井博士のを知る機会が与えられました。キリストを信じる者として日々の働きを隣人のために捧げていく姿に倣いたいと鼓舞されました。

追記

パパ様が来られた日、長崎でのミサの救護のため、JCNAの人たちが多数参加して下さったことに感謝です。

なお、この大会の参加者には、医療施設協会の方から10万円の援助金をいただきました。

今回、長崎だけは教会の方から救護班に人材を送るよう頼まれましたので、長崎の3団体が全面協力されました。お世話くださったシスター大山の報告です。

* 教皇フランシスコのミサに集まる方々のための救護 *

教皇様を長崎にお迎えして

長崎支部 シスター大山久美子

三十八年ぶりに来日される教皇様を長崎にお迎えするという嬉しい報道があり、カトリック看護協会長崎支部は、その際の救護の要請を長崎教区より受けました。八月初めにホテルニューナガサキで行われたカトリック医療三団体の大会で、参加者の皆様に実行委員長の中村満師を通して救護依頼を致しました。その後、カトリック医師会長崎支部長の芦澤先生を救護班の委員長として、教皇様来日の公式発表がなされる前から、十年前の列福式と同じ場所、同じ日ということ想定し準備を始めました。医師五十三名・看護師百四十五名・ボランティア百二十四名(南山高校・純心大学から各四十三名その他三十八名)の総勢三百二十二名のご協力をいただきました。一チーム六人態勢でフィールドに十九、スタンドに二十、場外に三チームの計四十二チームで救護班を結成致しました。長崎大学病院、久留米聖マリア病院から救急医療のチームも参加していただき、準備期間中、医師・看護師・ボランティアと連絡を取り合い、関係者と協議を重ねました。公式発表後の準備期間には、中央協議会のホームページに参加者心得を掲載し、当日のけが防止や感染予防にも努めました。途中、国賓一級扱いのセキュリティ強化もあり、前日になっても計画を変更せざるを得ない状況に陥りました。当日、セキュリティ待機場所であったサッカー・ラグビー場とミサ会場の導線が長く、同時に場内と場外、フィールドとスタンドとの行き来がセキュリティ上困難であった為、救護に支障をきたしました。

しかし、医師・看護師・ボランティアのメンバー一人ひとりが、誠実に各自の任務を果たし、一致協力して救護できたように思います。ご協力いただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

なお、東京ドームでの教皇司式ミサに、JCNA 会長もカトリック中央協議会から招待されました。アリーナの A5 ブロックという祭壇にごく近いところに 3 団体の長の席がありました。教皇様のお疲れも肉眼で感じ取れる位置でした。中央協議会に感謝です。

*****支部便り*****

・ 帰天者のためにお祈りください

2019 年 10 月 田中宏子様 元京都支部長(～2014)京都支部の灯を守り続けた方

<名古屋支部短信>

12 月 17 日クリスマス会を開催し、神父様 2 名、神学生 1 名、会員 16 名に仙台支部に移籍された南原さんも参加され大賑わいでした。今回の目玉は、南相馬農地再生協議会が販売しているドレッシングの試食でした。『忘れない為に出来る事』として今年 9 月のバザーで『油菜ちゃん』の販売を企画。会員の皆さんと一緒に実際に味わいながら去年 9 月に訪問した福島(カリタス南相馬に宿泊)のことを語り合いました。

<福岡支部短信>

新しい顧問司祭をお迎えすることができました。ペトロ浦川務神父様とペトロ金貞根(キムジョングン)神父様です。2019 年 9 月の支部総会から参加して頂いています。2ヶ月に一回(奇数月)に行っている例会でお話しをいただいています。

<大分支部短信>

— POPE IN JAPAN 2019 PROTECT ALL LIFE —

「教皇様ミサ in 長崎」へ参加しました。

パパモバイル上の教皇様、3mの近い所でお目にかかれました。大きくてやさしいまなざしと笑顔の教皇様 午前の雨が晴天になり 御ミサにほんとうにありがたく 感動と感謝のうちにあずかりました。

日本の地より特に被爆地より発せられました世界平和と核廃絶のメッセージを重く希望を持って受け止めました。大きなお恵みをいただきました。

1 月 12 日 恵みの聖母修道院にて司教様、顧問司祭様をおむかえして新年例会をもちました。

御ミサの後、Sr 牧山の用意して下さいました お雑煮、お料理を今年も美味しく頂きました。

司教様より年の始めのメッセージとパパ様が

日本に来て下さったことの意義を伺いました。

そして今年度の活動テーマ『三つの恵みを通して

家庭の福音化を实践しよう「いいですか」

「ありがとう」「ごめんなさい」について』と

新しい会員の勧誘に力を入れることなど

話し合いました。

感謝と満腹のうちに閉会しました。



